

防火設備に関する緊急調査報告

全国自治体病院協議会では、10月11日に発生した福岡市の診療所の火災を受け、正会員（病院）及び準会員（診療所）並びに附帯事業施設の防火設備の状況を把握するため、緊急調査を実施した。

- ・調査対象：当協議会正会員（病院）、準会員の診療所（附帯事業施設含む）
- ・調査時点：平成25年11月1日現在

回答数

〔病院〕 病床規模－開設者別

正会員 913 施設のうち、650 施設から回答(71.2%)があった。

開設者	病床規模 総数	病床規模					
		～99床	100～ 199床	200～ 299床	300～ 399床	400～ 499床	500床 ～
総数	650	162	160	89	100	60	79
都道府県・指定都市	152	20	36	24	26	19	27
市町村・組合	447	137	117	54	64	32	43
その他(地方独立行政法人等)	51	5	7	11	10	9	9
会員施設数	913	254	231	111	130	82	105
回答割合	71.2%	63.8%	69.3%	80.2%	76.9%	73.2%	75.2%

〔診療所〕 会員の種類・病床規模－開設者別

準会員 196 施設のうち、100 施設(51.0%)と準会員以外の診療所 35 施設の合計 135 施設から回答があった。無床診療所は 135 施設のうち、101 施設(74.8%)であった。

開設者	区分 総数	会員の種類		病床規模	
		準会員	準会員 以外	無床	1～ 19床
総数	135	100	35	101	34
都道府県・指定都市	28	12	16	27	1
市町村・組合	104	85	19	71	33
その他(地方独立行政法人等)	3	3	0	3	0

〔附帯事業施設〕 宿泊サービスの有無－開設者別

附帯事業施設(以下「附帯施設」)については、67 施設から回答があった。このうち、宿泊サービスが「有り」は 40 施設(59.7%)であった。

開設者	宿泊サービスの有無 総数	宿泊サービスの有無				
		無し	合計	有り		
				1～49人	50～99人	100人～
総数	67	27	40	10	21	9
都道府県・指定都市	8	3	5	2	2	1
市町村・組合	53	20	33	8	17	8
その他(地方独立行政法人等)	6	4	2	0	2	0

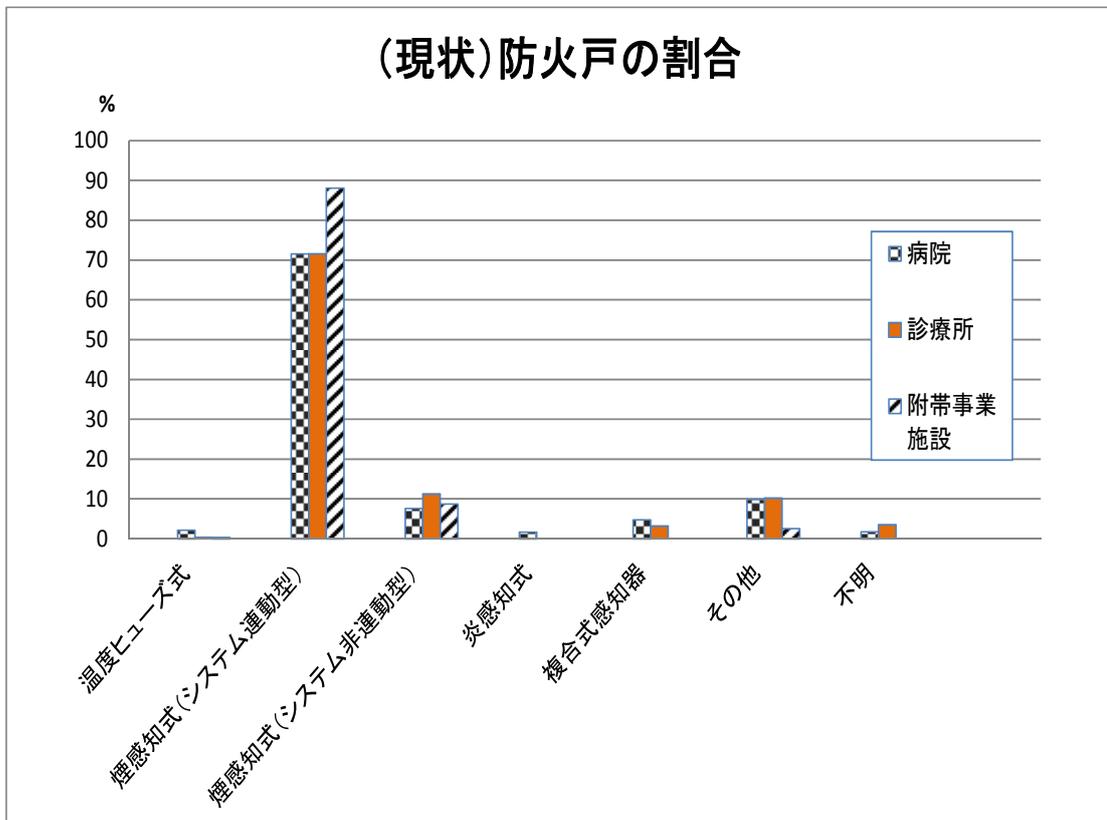
1. 防火設備の現状

第1表-1 防火戸の枚数、施設の種類

防火戸の種類に応じた設置状況を把握するため、種類別の枚数を調査し、構成割合を見た。

各施設とも、煙感知式(システム連動型)が70%以上を占めている。

防火戸の種類 施設の種類の	総数	温度ヒューズ式	煙感知式 (システム連動型)	煙感知式 (システム非連動型)	炎感知式	複合式感知器	その他	不明
枚 数 (枚)								
病 院	34,788	773	24,912	2,680	635	1,684	3,447	657
診 療 所	285	1	204	32	0	9	29	10
附 帯 事 業 施 設	226	1	199	20	0	0	6	0
構 成 割 合 (%)								
病 院	100	2.2	71.6	7.7	1.8	4.8	9.9	1.9
診 療 所	100	0.4	71.6	11.2	0.0	3.2	10.2	3.5
附 帯 事 業 施 設	100	0.4	88.1	8.8	0.0	0.0	2.7	0.0



第1表-2 防火・消火用設備の状況,「有り」の施設数・割合

施設区分 内容	病院 (n=650)		診療所 (n=135)		附帯事業施設 (n=67)	
	数	割合	数	割合	数	割合
常時閉鎖式防火戸	306	47.1%	19	14.1%	19	28.4%
スプリンクラー	596	91.7%	23	17.0%	51	76.1%
消火器	650	100.0%	129	95.6%	66	98.5%
屋内消火栓	596	91.7%	48	35.6%	47	70.1%
屋外消火栓	323	49.7%	19	14.1%	19	28.4%
自動火災報知設備	640	98.5%	103	76.3%	63	94.0%
消防機関へ通報する火災報知設備	591	90.9%	57	42.2%	54	80.6%
非常ベル	562	86.5%	87	64.4%	54	80.6%
自動式サイレン又は放送設備	627	96.5%	73	54.1%	56	83.6%
誘導灯・誘導標識	648	99.7%	120	88.9%	64	95.5%
滑り台	149	22.9%	9	6.7%	22	32.8%
避難橋	59	9.1%	1	0.7%	7	10.4%
救助袋	232	35.7%	7	5.2%	5	7.5%
その他の避難器具	252	38.8%	31	23.0%	16	23.9%

注 設置基準上、設置がなくてもよい施設も母数に含まれる

第1表-3 スプリンクラー設置状況の内訳

〔病院〕

スプリンクラーの設置が「無し」の54病院のうち、ほとんど99床未満の病院が占めている。小規模であったり、複数の棟に分かれているため、設置基準未満になっている。

施設数	病床規模						
	総数	～99床	100～199床	200～299床	300～399床	400～499床	500床～
病 院 数	54	52	2	0	0	0	0
構 成 割 合 (%)	100.0%	96.3%	3.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

〔診療所〕

診療所では有床のうち、76.5%、無床のうち85.1%がスプリンクラーの設置「無し」となっている。

施設数	項目	有床 診療所 回答数	スプリンクラー		無床 診療所 回答数	スプリンクラー	
			無し	有り		無し	有り
診 療 所 数		34	26	8	101	86	15
構 成 割 合 (%)		100.0%	76.5%	23.5%	100.0%	85.1%	14.9%

〔附帯施設〕

附帯施設のうち、宿泊「有り」の施設には、ほとんどスプリンクラーが設置されているが、宿泊「無し」の施設では、約半数が設置「無し」となっている。

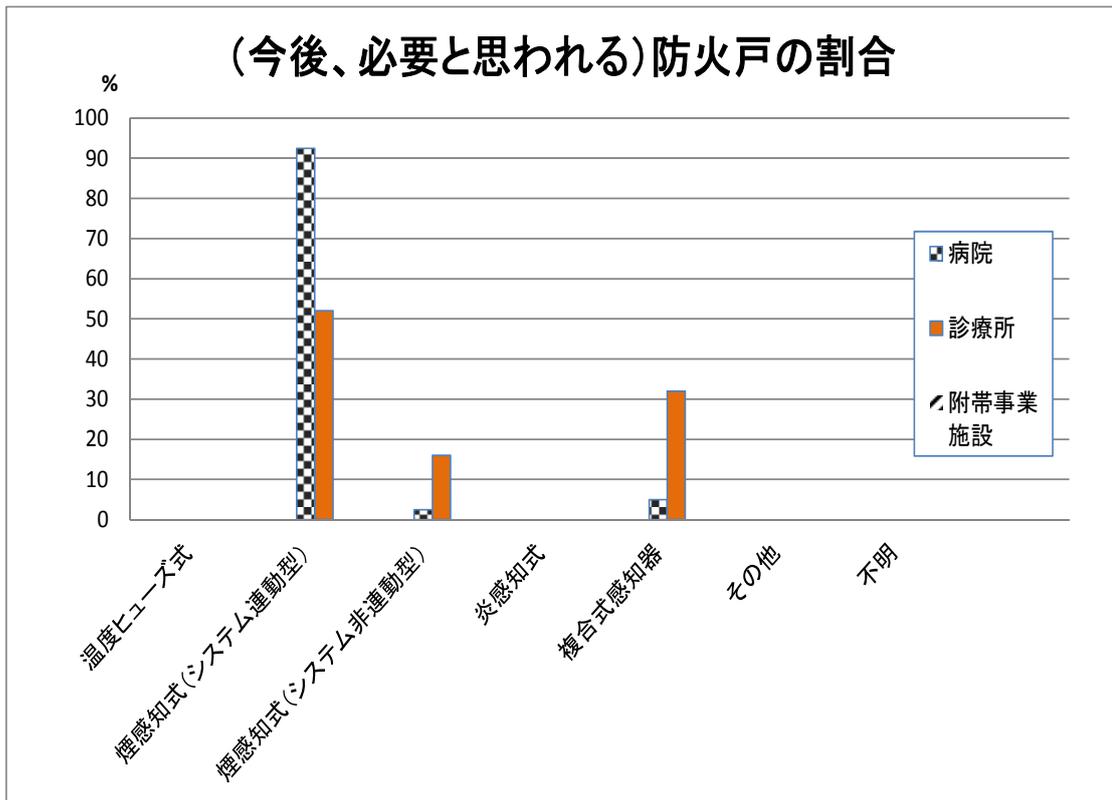
施設数	項目	附帯施設 宿泊「有り」 回答数	スプリンクラー		附帯施設 宿泊「無し」 回答数	スプリンクラー	
			無し	有り		無し	有り
施 設 数		40	3	37	27	13	14
構 成 割 合 (%)		100.0%	7.5%	92.5%	100.0%	48.1%	51.9%

2. 今後、必要と思われる防火設備

第2表-1 防火戸の枚数, 施設の種類の

今後、必要と思われる防火戸は病院では煙感知式(システム連動型)が 92.5%、診療所では煙感知式(システム連動型)が 52.0%、複合式感知器が 32.0%であった。

防火戸の種類 施設の種類の	総数	温度ヒューズ式	煙感知式 (システム連動型)	煙感知式 (システム非連動型)	炎感知式	複合式感知器	その他	不明
枚 数 (枚)								
病 院	160	0	148	4	0	8	0	0
診 療 所	25	0	13	4	0	8	0	0
附 帯 事 業 施 設	0	0	0	0	0	0	0	0
構 成 割 合 (%)								
病 院	100	0.0	92.5	2.5	0.0	5.0	0.0	0.0
診 療 所	100	0.0	52.0	16.0	0.0	32.0	0.0	0.0
附 帯 事 業 施 設	0	-	-	-	-	-	-	-



第2表-2 防火・消火用設備の必要性, 「有り」の施設数

(単位:施設数, 割合)

施設区分 内容	病院 (n=650)		診療所 (n=135)		附帯事業施設 (n=67)	
	施設数	割合	施設数	割合	施設数	割合
常時閉鎖式防火戸	19	2.9%	1	0.7%	0	0.0%
スプリンクラー	21	3.2%	13	9.6%	4	6.0%
消火器	2	0.3%	1	0.7%	0	0.0%
屋内消火栓	4	0.6%	6	4.4%	2	3.0%
屋外消火栓	15	2.3%	2	1.5%	1	1.5%
自動火災報知設備	2	0.3%	1	0.7%	0	0.0%
消防機関へ通報する火災報知設備	13	2.0%	4	3.0%	0	0.0%
非常ベル	4	0.6%	3	2.2%	1	1.5%
自動式サイレン又は放送設備	5	0.8%	4	3.0%	1	1.5%
誘導灯・誘導標識	1	0.2%	0	0.0%	0	0.0%
滑り台	36	5.5%	2	1.5%	0	0.0%
避難橋	19	2.9%	1	0.7%	1	1.5%
救助袋	21	3.2%	0	0.0%	1	1.5%
その他の避難器具	14	2.2%	1	0.7%	1	1.5%

3. その他防火設備に関する意見等

- 室内の改装や用途変更により、スプリンクラー未警戒となった区画や新たな設置が必要となった箇所がある。
- 老朽化に伴い、不具合が生じている防火戸・防火シャッター、スプリンクラー等消火用設備がある。順次更新しているが、経営が厳しく遅れがちである。
- エレベーター・エレベーターホールにおいて、遮煙性能等の強化が必要である。
- スプリンクラー設置が「無し」の病院で、国や県から補助があれば設置を検討したいという声もあった。